

米国における Risk Management & Insurance 教育最前線 (上)

米国で最古のプログラムの一つ

ウィスコンシン大学のMBAプログラム入学

MBAを終えて 迫田力

MBA留学に至った理由

会社派遣による米国でのアンタラーティング

トレーニングの経験を含めて、保険会社と保険ブローカーにおいて合計16年間の業界経験を有するも、自分の知識、能力レベルに満足するに至らず、リスクマネジメント・コンサルタンとして、知識、能力をさらに向上させるには、より厳しい環境において自分の限界を超える鍛錬が必要と考え、自費留学に至った。具体的には、具体的な保険知識の習得、英語力とプレゼンテーション能力の向上に加え、リスクマネジメントには欠かせないファイナンス、アカウンティング、経済学、

Wisconsin 大学 同大 1848年に創設された全米で最古かつ最大規模の州立大学のひとつであり、現在約4万1000人が在学している。学会、政界、財界をはじめ各分野に多数の卒業生を輩出している。現在までの博士号取得者数はハーバード大学に次いで全米で第2位である。また、

今考えれば、自分でもよく40歳で会社を辞めてまで米国留学に踏み切ったものだと思っ、頑張れば必ず卒業できるという保証はなく、たとえ卒業できても就職先が見つかるかどうか不明な状態で第2位である。また、

統計学など幅広い周辺知識を習得するという目標を掲げてMBAプログラムに入学した。また、リスクマネジメントに関する論文・書籍を出版するという将来の目標を達成するには、前述の知識習得に加え、リスクマネジメント学会や大学教授との深い人脈形成が不可欠と考え、また当プログラムにおける卒業生、在校生との幅広いネットワークを構築するというのも入学前の目標として掲げ、入学に至った。

【迫田力(よこた・ちから)氏略歴】1964年6月兵庫県西宮市生まれ。88年同志社大学経済学部卒。同年富士火災入社。94年海外研修員制度に合格。米国ケルケマー International 本社で1年間アンタラーティング・コンサルティングを受ける。イリノイ州損

フォーチュン500企業 の全CEOで同大学卒のCEOが占める割合はハーバード大学と並んで全米トップにランクされている。 Actual Science/ Risk Management & Insurance プログラムは、1963年に設立された。保険数理を学 Actuarial Science 教授(North Carolina 大学博士課程修了)▷Marjorie A. Rosenbergsen教授 (Michigan 大学博士課程修了)▷Dan R. Anders 教授 (Wisconsin 大学博士課程修了)▷Joanna T. Schmitt教授 (Indiana 大学博士課程修了)

Wisconsin 大学におけるMBAとRisk Management & Insurance プログラム

MBAプログラムは48年に設立され、全米で最古のMBAプログラムのひとつである。2009年のUS Newsでは全米で3位にランクされている。1学年112人と

必要で有益な知識を習得

将来の目標達成に向けて留学

の二つの学科を擁し、5人の担当教授の指導の下で現在約110人の大学学部生に加え、20人の修士課程(MSとMBA)の9人の博士課程

いっく少精鋭のプログラムである。アジアや欧州を含め世界各国から学生が集まり、外国人学生は22%を占める。米国人学生では地元中西部の出身者が多い。なお女性の比率は35%である。特徴として各学生が13の専門分野(Career Specialization)から自分の学びたい分野を選び、その分野を集中して履修できる点がある。これは他校との差別化につながり、各企業でも即戦力になるスペシャリストを採用するため、昨今ランキングが毎年急激に上昇している。Risk Management & Insurance

する。わたしの学年は、わたしのほかに中国人2人、インド人1人、1学年下には中国人、韓国人、メキシコ人、米国人各1人という構成であった。現在に至るまで既にほぼすべてのアジア各国の留学生が卒業しているが、日本人としてはわたしが当該プログラム開設以来初めての卒業生であった。全米のMBAの中でRisk Management & Insurance プログラム専攻の卒業生は非常に数が少なく、希少価値であることから、卒業生はMBA在学中に保険会社、保険ブローカー、企業のリスク・マネジャー、コンサルティング会社などの就職先への内定を得ることができ

績優秀な学生に対しては、Fellowshipが与えられ、全学費および健康保険免除に加え、生活費までも支給される。MBAにおけるRisk Management & Insurance プログラム MBAにおけるRisk Management & Insurance プログラムは業界のリーダーを養成するべく主眼を置いている。世界各国から多数の受験者が集まり、GMAT、TOEFL、エッセイ、大学の成績(GPA)、インタービューの総合評価で合否が判定される。毎年3~4人の学生が当該プログラムに合格

卒業生のネットワークは当該プログラムに欠かせない魅力である。ケースブローカーとして数々の卒業生が大学を訪問し、プレゼンテーションや学生との交流を行う。保険ブローカーや保険会社のCEOや役員が自分のプレゼンテーションを行い、質問にも自ら答えるケースもあった。これら卒業生の勧誘により、卒業後の就職先を得る学生もいる。

教授陣は著名かつその質は全米トップクラスであり、各教授は独自の専門分野を持っている。数少ない学生に対して1人の教授がほとんど個人指

導に近い形で授業を進める。これは1人の教授が多数の学生を同時に指導する日本の大学の教育システムでは考えられない大きなメリットである。各教授は学生の教育のほかに、学会に対する研究論文の執筆と発表、企業のリスクマネジメント・コンサルティング、保険会社の経営アドバイザーなどの仕事にも携わっている。

なお、当該プログラムは毎年保険会社、卒業生等から寄付金を受領しており、その資金を州からの補助金と合わせてプログラム運営資金の一部に充当している。

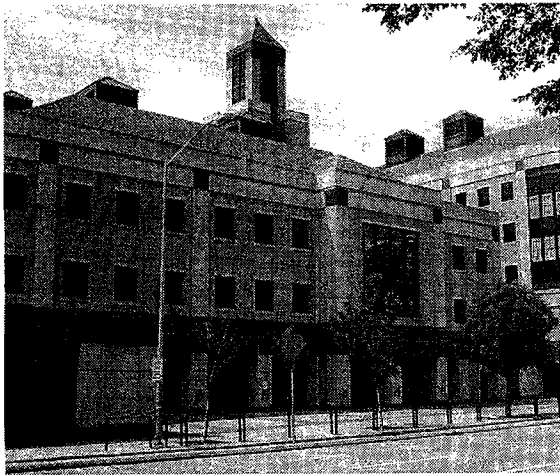
③ MBAでの履修科目

〈1年目〉

第1学期は、▷Accounting▷Financial Management▷Marketing Management▷Data Analysis and Decision Making▷Career Specialization▷Professional Perspectives

第2学期は、▷Operations Management▷Economics for Managers▷Managing Behavior in Organizations▷Career Specialization▷Professional Perspectives

第1学期は、▷Strategic Management▷Business Law▷Business Ethics▷Business Writing▷Business Research Methods▷Business Statistics▷Business Calculus▷Business English▷Business Communication▷Business Information Systems▷Business Law▷Business Ethics▷Business Writing▷Business Research Methods▷Business Statistics▷Business Calculus▷Business English▷Business Communication▷Business Information Systems



ウィスコンシン大学

熱波襲来

高温のリスクから従業員を守れ

【ビジネス・インシデント】フランス8月7日号】最近米国各地を襲った記録破りのヒート・ウェーブに耐えて生き残ることは、まさに生きるか死ぬかの闘いに勝つと同じようなことかもしれない。

最近高温にさらされる職場での死傷者の数が減ってきたという事実があるにしても、高温との闘いが続いていることは事実だ。米国労働統計局によれば、直近で完全な数字がある2004年に高温にさらされたことが原因で死亡した従業員の数は18人だったが、5年前には34人が死亡している。しかし最近各地を襲ったヒート・ウェーブは、さまざまな形で高温のリスクにさらされる従業員を守ることの重要性を明らかにしている。

高温にさらされること、多くの従業員に脅威を与えていることは否定できない。「エアコンがない建物の中で仕事をしている従業員は誰でも高温が原因の病気にかかるリスクがある」とマサチューセッツ州ホプキントンにあるリバティ・ミューチュアル・インシデント・プロダクト・ディレクター、テッド・クリステンセン氏は述べた。

しかし比較的簡単な対策（しかるべき水分を大量に取る、熱を防ぐための適切な服装をする、ただし衣類を身につけ過ぎないこと）で高温に起因する問題をかなり防ぐことができる、と専門家たちは言う。

熱射病は「通常体温が40・6度以上になると起きる。このように熱が高くなる、発汗が止まる」とフィラデルフィアにあるエース・USAの子会社EISの建設業サービス担当バイス・プレジデント、アレックス・フラムセン氏は述べた。

「このような危険があることを教育することが重要だ」とフラムセン氏は述べた。

「このような危険があることを教育することが重要だ」とフラムセン氏は述べた。

従業員が職場を守るべき慣行についてその内容を理解しなければ、彼らが必要とするような慣行を守ることはならない、と彼は述べた。「人間は教えられたことを理解したいと思うものだ」と彼は述べた。

「全体的な進め方として、まずわれわれのメンバーにこのようなリスクがいかに高いかについて認識させようと思っ」

「この講習会で監視員は、従業員が一日何時間戸外で仕事をするかを検討した上で適切なローテーションを組んだり、ある場合には強制的に休憩を取らせたりするように配慮することが求められる」と彼は述べた。

熱射病は生命に危険が及ぶが、ドライスキン、意識障害、意識混濁、そして意識喪失などの症状が出ることで熱射病かどうか判別できる、とクリステンセン氏は述べた。

ジェンセン氏は、PDRMAは夏が来る前に各メンバーのところで仕事をしている「非常な高温にさらされるリスクがある従業員」を対象に教育活動を実施した。このように従業員には、「草刈り、球技場のメンテナンス、芝の整備などの仕事を含む公園のメンテナンスにかかわる従業員」ならびにプールなどの監視員や屋間のキャンプの指導員などが含まれる。

「われわれは従業員たちに繰り返し、かき水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」

「われわれは従業員たちに、熱射病に対する注意と水分を取るの必要性を喚起し、かつ水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」

「われわれは従業員たちに繰り返し、かき水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」

「われわれは従業員たちに、熱射病に対する注意と水分を取るの必要性を喚起し、かつ水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」

「われわれは従業員たちに繰り返し、かき水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」

「われわれは従業員たちに、熱射病に対する注意と水分を取るの必要性を喚起し、かつ水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」

「われわれは従業員たちに繰り返し、かき水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」

「われわれは従業員たちに、熱射病に対する注意と水分を取るの必要性を喚起し、かつ水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」

「われわれは従業員たちに繰り返し、かき水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」

「われわれは従業員たちに、熱射病に対する注意と水分を取るの必要性を喚起し、かつ水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」

「われわれは従業員たちに繰り返し、かき水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」

「われわれは従業員たちに、熱射病に対する注意と水分を取るの必要性を喚起し、かつ水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」

「われわれは従業員たちに繰り返し、かき水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」

「われわれは従業員たちに、熱射病に対する注意と水分を取るの必要性を喚起し、かつ水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」

「われわれは従業員たちに繰り返し、かき水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」

「われわれは従業員たちに、熱射病に対する注意と水分を取るの必要性を喚起し、かつ水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」

「われわれは従業員たちに繰り返し、かき水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」

「われわれは従業員たちに、熱射病に対する注意と水分を取るの必要性を喚起し、かつ水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」

「われわれは従業員たちに繰り返し、かき水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」

「われわれは従業員たちに、熱射病に対する注意と水分を取るの必要性を喚起し、かつ水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」

「われわれは従業員たちに繰り返し、かき水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」

「われわれは従業員たちに、熱射病に対する注意と水分を取るの必要性を喚起し、かつ水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」

「われわれは従業員たちに繰り返し、かき水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」

「われわれは従業員たちに、熱射病に対する注意と水分を取るの必要性を喚起し、かつ水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」

「われわれは従業員たちに繰り返し、かき水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」

「われわれは従業員たちに、熱射病に対する注意と水分を取るの必要性を喚起し、かつ水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」

「われわれは従業員たちに繰り返し、かき水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」

「われわれは従業員たちに、熱射病に対する注意と水分を取るの必要性を喚起し、かつ水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」



「われわれは従業員たちに繰り返し、かき水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」

「われわれは従業員たちに、熱射病に対する注意と水分を取るの必要性を喚起し、かつ水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」

「われわれは従業員たちに繰り返し、かき水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」

「われわれは従業員たちに、熱射病に対する注意と水分を取るの必要性を喚起し、かつ水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」

「われわれは従業員たちに繰り返し、かき水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」

「われわれは従業員たちに、熱射病に対する注意と水分を取るの必要性を喚起し、かつ水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」

「われわれは従業員たちに繰り返し、かき水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」

「われわれは従業員たちに、熱射病に対する注意と水分を取るの必要性を喚起し、かつ水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」

「われわれは従業員たちに繰り返し、かき水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」

「われわれは従業員たちに、熱射病に対する注意と水分を取るの必要性を喚起し、かつ水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」

ヒート・ウェーブの脅威

「われわれは従業員たちに繰り返し、かき水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」

「われわれは従業員たちに、熱射病に対する注意と水分を取るの必要性を喚起し、かつ水やスポーツドリンクを飲む場所を現場のいたるところに設置していつでも水分を補給できるようにしている。」

(4面からつづく)

egy Career Specialization (4科目)。

第2学期は、Ethics / Career Specialization (4科目)。

1年目はほかのMBAプログラムと同様ファイナンス、オペレーション、アカウントティング、統計、経済学やマーケティングなどを必須科目として履修する。必須科目に加えて自分の専攻科目を3科目履修する。2年目は各学期1科目の必須科目のほかは自分の専攻科目を選択できる。わたしの場合は専攻科目として「Principles of Risk Management / Liability Risk Management / Risk Finance」を選択し、2年目は「Principles of Property Risk Management / Research of Risk Management / Employee Benefits / Risk Management Consulting Project / Environmental Risk Management / Financial Statement Analysis / Managerial Accounting」履修した。中でもDan R. Anderson教授の教える「Environmental Risk Management」は環境リスクマネジメントに関する全米で唯一のコースであり、今年出版された同教授の「Corporate Survival」という本を中心として最新のトピックが盛り込まれ、他学部からさまざまな教授がゲストスピーカーとして登場するなど非常にユニークで価値の高いコースであった。

リスクマネジメントを学ぶ上で、ファイナンスやアカウントティング、統計の知識は保険の知識に加えて欠かせないものであり、将来の自分の目標達成に必要な有益な幅広い知識を習得できた。

最終学期には非常に印象深い経験ができた。MBA Risk Management & Insuranceプログラムの1年生と2年生の8人の学生が、合同で地元福利厚生施設のリスクマネジメントに関するコンサルティング・プロジェクトを行った。レポート作成とプレゼンテーション資料を仕上げたために全員が夜を徹して作業を行い、プレゼンテーション終了後に先方の社長から感謝されるなど、成功を収めることができた。MBAでのプロジェクトは各学生がファイナンス、アカウントティング、保険数理、アンケート、バックグラウンドを持つっており、一つの目標に向けて互いに切磋琢磨しながら、それぞれ知識や経験を最大限発揮することによって味わった。

(つづく)

米国における Risk Management & Insurance 教育最前線 (下)

米国で最古のプログラムの一つ

ウィスコンシン大学のMBAプログラム卒業

MBAを終えて 迫田力



Wisconsin大学におけるRisk Management&Insurance (RMI) の教育最前線

保険先進国である米国で、Risk Management & Insurance (RMI) のプログラムを保有している大学の数は非常に少ない。わたしの卒業したUniversity of Wisconsin-Madison (ウィスコンシン大学) は、University of Pennsylvania, University of Georgia, Georgia State University, Temple University などと並ぶ。

University of Illinois-Urbana Champaign, University of Texas, University of Mississippi のようなファイナンシャル系やほかのプログラムの一部は、Risk Management & Insurance の各種単科コースが組み込まれている大学は全米に数多く存在する。

わたしのTeaching Assistant (MBA Assistant) の学生が分拍で教授の補佐として補習講座、テスト問題の作成、採点を行う。当初、かなり難しいテスト問題を作成しても、大学生が優秀で平均点が80点であったので、テスト問題を難しくした。

授業の後、質問のためにTeaching Assistant のオフィスに多数の生徒が押し寄せる。また、Eメールでも多数の質問が寄せられる。質問やアドバイスへの対応は大変であったが、教える側も逆に熱心な大学生から学ぶことができた。非常に勉強になった。

米国の大学生は「高い授業料を払ってわざわざ4年間勉強しにきているのだから、学びのだけ多くを得たい」という意欲が強く、また人事採用の際や大学院入学の際に大学の成績が大きく影響するので、少しでも高い点数を取ることが死に勉強する。保険会社が社員を採用してから自社で時間と経費をかけて教育する日本のシステムとは大きく異なり、Risk Management & Insurance 専攻の大学生は4年間でプレゼンテーション技術、企画書の作成、保険、ファイナンシャル・アカウンティングなどの知識を含めて即戦力になり得る幅が広く、かつ深い知識を身につけて卒業し、業界入りするようになる。ただし、せっかく難関大学に入学できて

も、入学後の厳しい競争の中で十分な卒業単位、成績を満たすことができず、卒業できない大学生も多く、当該大学では全体の約25%が退校または放校処分となる。

MBAでの2年間を終えて、米国のMBAプログラムで母国が英語のクラスメートと同じクラスを受講し、講義のディスカッションに参加、教授から

1年目の努力が認められ、2年目にはRisk Management & Insurance の担当教授(Dr. Joan T. Schmitt) がある仕事であった。

ちなみに学期終了後は全受講生にアンケートが配られ、Teaching Assistant に対して20項目におよぶ詳細な評価がなされる。大学生は容赦なく、各人の思ったまま評価を記入する。評価の平均が低く、一定の基準を満たしていない場合は、次学期のTeaching Assistant になる。

資格取得のための勉強ではなく、これらの有益な知識を得て、自己能力の向上に向けて努力を続けてきた。究極的には、今後のリスクマネジメントおよび保険業界の発展に貢献するため、大学(学会)とビジネスの世界の架け橋的な存在を目指した。http://www.wisc.edu/ (おむこ)



ウィスコンシン大学卒業式で

息つく暇もない厳しい環境に刺激

米国のMBAプログラムで母国が英語のクラスメートと同じクラスを受講し、講義のディスカッションに参加、教授から1年目の努力が認められ、2年目にはRisk Management & Insurance の担当教授(Dr. Joan T. Schmitt) がある仕事であった。

CPCU資格取得が目標

今後の展望
当面は、2年間のMBAで学んだ知識を生かし、米国において保険ブローカーとして質の高いリスクマネジメント・コンサルティングを展開していきたい。具体的に

自分でも学びながら1年間大学生のRisk Management & Insurance (RMI) の補修クラスを週2回教えるという経験ができた。教える内容を完璧にマスターしていないと授業の途中で生徒に質問された際に即答できない可能性があるが、まじり母国語ではない英語ではなおさら講義の前に完璧な準備をする必要があった。さらにテスト作成、採点、質問への対応など自分自身のMBAの勉強と両立するのは大変だったが、熱心な大学生を教えるのは非常にやり甲斐がある仕事であった。

読者の中で将来米国で何かを学ぼうという希望を持っている方は、苦勞の代償に得るものも非常に多いので、是非その希望を実現していただきたい。ただし、貴重な時間と努力を無駄にしないためにも、十分にプログラムの内容を調べてから出願するようをお勧めする。

は、さまざまなリスクを抱える企業側の立場を完全に理解し、個々の企業に最適なソリューションを提案することが非常に重要であると考えます。現在の個人目標は現在取得中のCPCU (Chartered Property

は、さまざまなリスクを抱える企業側の立場を完全に理解し、個々の企業に最適なソリューションを提案することが非常に重要であると考えます。現在の個人目標は現在取得中のCPCU (Chartered Property

は、さまざまなリスクを抱える企業側の立場を完全に理解し、個々の企業に最適なソリューションを提案することが非常に重要であると考えます。現在の個人目標は現在取得中のCPCU (Chartered Property

は、さまざまなリスクを抱える企業側の立場を完全に理解し、個々の企業に最適なソリューションを提案することが非常に重要であると考えます。現在の個人目標は現在取得中のCPCU (Chartered Property

は、さまざまなリスクを抱える企業側の立場を完全に理解し、個々の企業に最適なソリューションを提案することが非常に重要であると考えます。現在の個人目標は現在取得中のCPCU (Chartered Property

は、さまざまなリスクを抱える企業側の立場を完全に理解し、個々の企業に最適なソリューションを提案することが非常に重要であると考えます。現在の個人目標は現在取得中のCPCU (Chartered Property

は、さまざまなリスクを抱える企業側の立場を完全に理解し、個々の企業に最適なソリューションを提案することが非常に重要であると考えます。現在の個人目標は現在取得中のCPCU (Chartered Property

は、さまざまなリスクを抱える企業側の立場を完全に理解し、個々の企業に最適なソリューションを提案することが非常に重要であると考えます。現在の個人目標は現在取得中のCPCU (Chartered Property

は、さまざまなリスクを抱える企業側の立場を完全に理解し、個々の企業に最適なソリューションを提案することが非常に重要であると考えます。現在の個人目標は現在取得中のCPCU (Chartered Property

FP入門

赤堀勝彦 著

金融機関で仕事をされる社員や代理店の方たちはもとより、FPを初めて学ぶ一般の方々や学生にも十分理解できるように、分かりやすく解説しています。

● 定価 2,940円(税込) ・送料 340円
● B5判 ● 349頁 (平成17年11月刊行)

(株)保険毎日新聞社 〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-4-7 TEL03-3865-1401 お申し込みはFAX03-3865-1431